

「逆境や危機を乗り越えて」

今年も例年のように春が訪れ、そして初夏を迎え、アジサイの花が一層色鮮やかな6月4日、総本部「第11回定時総会」が尼崎エーリックに於いて開催されました。今年度の総会は、昨年同様コロナ禍に配慮して、ハイブリット型で、当日会場へ参加いただいた代議員および元老・相談役・参与の先生方の他に、リモート方式で21名の代議員諸氏に参加頂いての会議となりました。

詳細報告は別掲の通りですが、私からは特に、長引くコロナ禍に加えて経済危機やウクライナ危機など嘗て経験したことが無い環境下で新年度に入りますが、一年後に迎える90周年が輝かしい歴史的一幕となるよう、執行部が一体となって課題に取り組むことを決意し、会員皆様のご理解とご協力をお願いしました。閉会に当たって登壇戴いた芳倉清峰元老（第10代会長）からは、「自然の摂理を避けられないが、現状に甘ん



総本部会長 地藏 哲暲

じることなく、決まったことには全員で勇気をもって対応し、コロナ禍を吹き飛ばす勢いをもって90周年大会を全員参加で迎えましょう」と力強いメッセージを頂きました。

思い起こせば、3年前の総会で2期目の総本部会長を委嘱頂いた私は「天の与えたこの道を我が道と心得、全力を絞って勇気と行動をもって課題に挑戦して参ります。」と約束しました。以来、人生百年時代を見据えて10年後を視野に入れた諸施策の立案実行に力を入れてきましたが、あに凶らんや2年間に亘って吹き荒れたコロナ危機に、活動が大きく阻害され逆風に晒されて、全国的に大勢の仲間を失うという残念な結果となつてしまいました。

まさに関西吟詩は大いなる逆境の中ではありますが、先日ふと眼に止めた書籍の中に、「逆境を越える叡智は、すべて、与えられる」と信じることに、その覚悟を定める